

令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

坂井市立三国北小学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

(2) 協議会の内容

◎構成メンバー（11名）

家庭 PTA(就将会)役員（2名）

地域 区長会（2名） コミュニティC長（1名）

民生委員（1名） 学校ボランティア（1名）

見守り隊代表（1名）

学校（校長・教頭・教務）（3名）

※地域コーディネーター（3名）

コミュニティセンター長（1名）、見守り隊代表（1名）、PTA 代表（1名）

①第1回 7月5日（金）

○本年度のスクールプラン

○1学期の児童の様子

②第2回 10月6日（日）

○緊急時児童引き渡し訓練の
評価

③第3回 2月28日（金）

○学校評価

○来年度に向けての意見交換

(3) 協議会における成果と課題

今年度の協議会の中で特によく話題になったのが、家庭の教育力が低下傾向にあるということであった。「早寝・早起き・朝ごはん」に代表されるような基本的な生活習慣は親の責任であり、子どもを甘やかせず厳しくたくましく育てることが現代社会の中でも普遍的に大切であることが議論された。また、地域の教育力の掘り起こしも必要であるとの意見が多く出された。家庭・地域・学校が三位一体となって子どもを育てるという視点を今後も大切にして、それぞれの立場で今後も健全なる子どもの育成を目指していくことを確認した。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

三国町は三国祭や帯のまち流しなど歴史的文化的に価値のある催しが多い。児童がこれらの地域行事に関わることを通して、ふるさと三国の歴史と伝統を感じ、地域を大切にしていこうとする心を育てる。地域行事に参加するなかで、地域の人とのふれあいを通して、地域や人に対する思いやりの心をもった児童を育てる。そして、ふるさとに誇りと愛着をもち、守っていこうとする児童を育成していく。

(2) 活動の実際

①ふるさと三国についての学習とボランティア活動

三國湊の歴史や三国祭、帯のまち流しなど三国の歴史や文化について調べ、三国の町の魅力を他へ発信していく方法を考えた。また三国祭当日には、全学年にボランティアを募り清掃活動を行った。

②三国節の練習会と「帯のまち流し」への参加

本校では8年前から帯のまち流しに参加している。この取り組みは、三国の歴史や文化に触れる機会の一つとして位置づけており、無形民族文化財である三国節を習い参加するものである。帯のまち流しを運営する三国會所に所属する方を講師にお招きし、三国節の歴史や由来などの話を聞き、踊りの練習会を数回行った。



また、クラブ活動の一つに「三味線クラブ」を設け、児童が地方（じかた）として三国節を継承し、帯のまち流しに参加するために、町内から三味線、篠笛、歌の外部講師を招いて指導を受けた。

（3）地域コーディネーターの活動概要

帯のまち流しの主催者の三国會所との橋渡しをしていただいた。また、帯のまち流しの三国節の踊りを指導することのできる方を紹介していただいた。三味線や篠笛、歌など地方（じかた）の指導ができる地域の人も紹介していただいた。

（4）特に工夫した事項

○三国祭りや帯のまち流しに参加するだけでなく、10月のウォークラリーでは自分たちのふるさとである三国の街並みを歩きながら自分の目で再確認した。いくつかの地点でボランティアの方からその場所の歴史などの説明を聞く機会も設けた。さらには三国祭の由来についても調べたことで、清掃ボランティアを行う意欲づけにもなった。また、図工の木版画などでは三国祭や帯のまち流しを題材に積極的に取り上げるように指導した。

○帯のまち流しを市民文化祭のステージで発表したり町内の様々な行事で披露したりした。活動の成果をたくさんの人に伝えることができ、ふるさと三国の一員であることを実感できた。

（5）成果と課題

地域指導者の方からは、児童の活動の様子について高く評価していただき、帯のまち流しでは、児童の糸乱れぬ踊りに対して多くのお褒めの言葉をいただいた。また、参加した児童も当日は楽しく参加することができ、それまでの活動を通して達成感を味わうことができた。

地域の方々には、貴重なお話や踊りの指導、地方（じかた）の指導など、児童らのためにご協力をいただいた。学校だけではできない数々の体験活動が実践できたのは、地域の方々のおかげである。

今後はより体系的にふるさと三国に関する学習を進めていくために、生活科と総合的な学習の時間の年間指導計画を再編していく。家庭・地域・学校が一体となって、ふるさと三国を愛する児童を育成していきたい。